

乳び尿の男性

昭和17年台湾生まれの男性。

終戦とともに奄美大島に転居し、12歳まで同島に住む。

その後、大阪市内に転居。

25歳頃より陰嚢水腫出現。

30歳時(昭和47年)に乳び尿が出現したため大阪市内の病院に入院し、

夜間に採血したこと、

血中マイクロフィラリアは陰性であったこと、

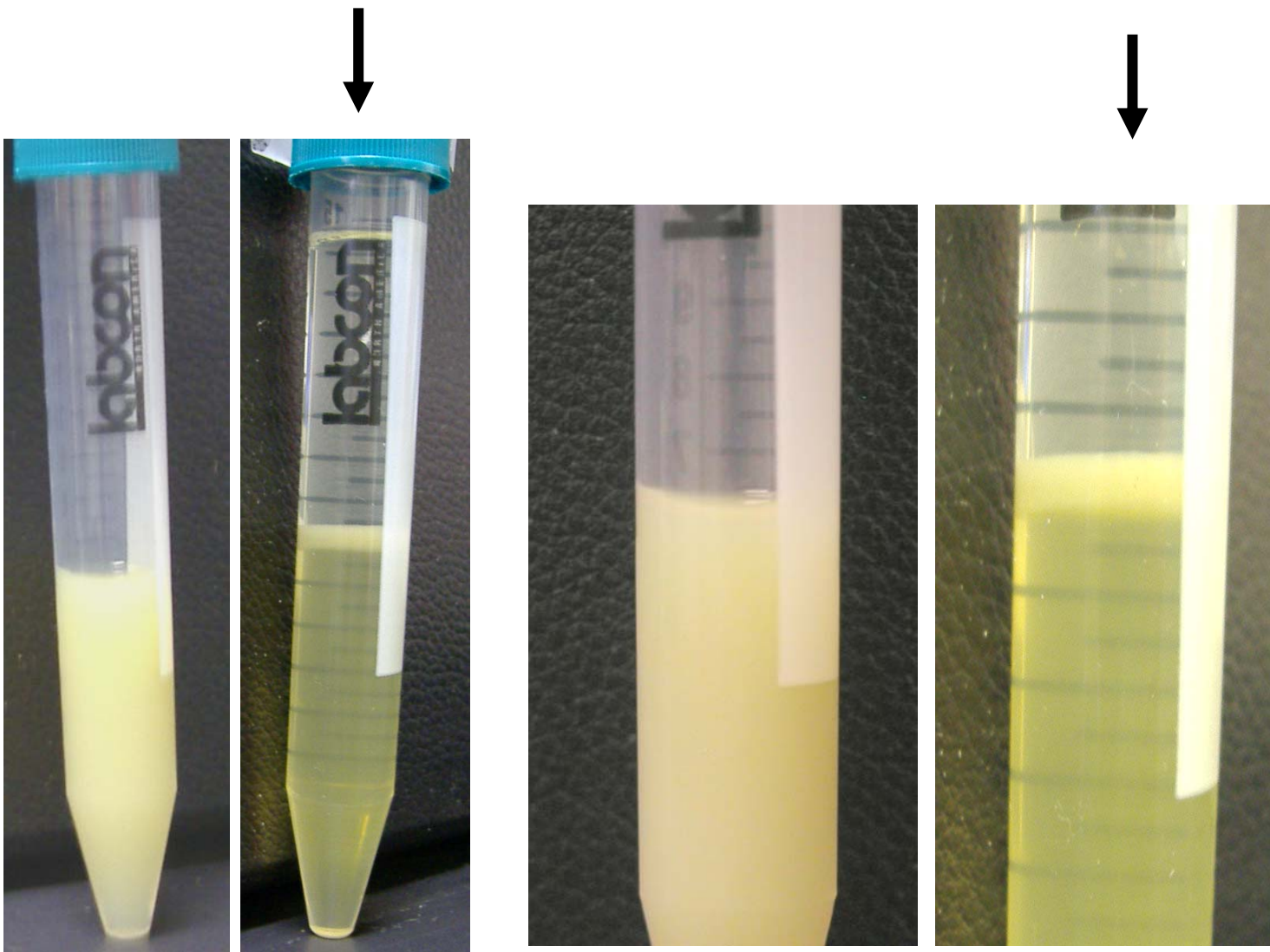
乳び尿の責任腎(左腎)を(おそらく硝酸銀液の腎盂注入)治療したことを記憶している。

その後、奈良県内に転居。

平成元年にも乳び尿が出現し、県内N病院にて同様の治療を行ったことがある。

長期間乳び尿の出現は無かったが、平成19年再出現したためN病院を受診した。

軽度の陰嚢水腫を認めた。乳び尿は恒常的でなく低頻度であり観察のみとした。フィラリア抗原に対するIgG4抗体検査(愛知医科大学)でも抗体は陰性で活動性のある感染は無いと考えられた。。



↓ は、エーテル添加振とう後の尿